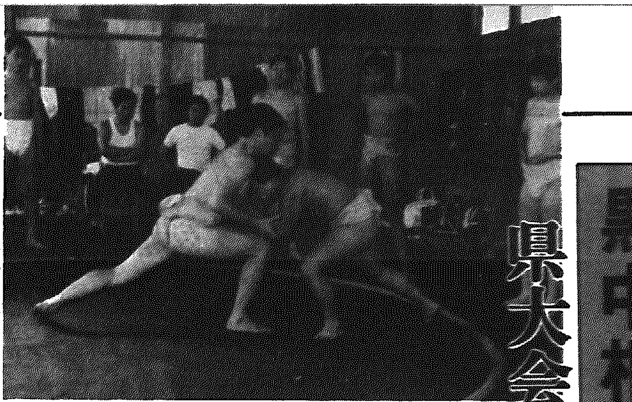


放課後汗だくで練習にはげむ各選手

黒中相撲部

二年連続 県大会優勝、全国大会へ駒を

七月一日、見附市市民相撲場で県下から強豪七か校が参加して、全国中学校相撲選手権大会新潟県選手権大会が開かれ、全国への出場権をかけ熱の入った大会が行われました。

当日は対戦校のすべてが、昨年優勝の黒埼中学校を打倒と一丸となってぶつかってきましたが、これに負けじと必死に奮戦し、全校から勝点をあげ、勝率第一位で、見事優勝、二年連続全国大会への出場権を獲得しました。

全国大会は、八月十九日、東京蔵前国技館で、全国から五十か校およそ二百五十人程が参加して行われる予定です。昨年は惜しくも予選で敗退しましたが、指導に当っている遠藤先生は「まず予選を通過することが第一本命で、これを土台に是非優秀十六か校に食い込みたい」と話しておられました。

選手は、総員十五名、毎放課後遠藤先生の指導のもとで、これまでにない意欲と、熱のこもった練習を続けています。

町民の皆さんの応援をお願いします。

分館対抗町民大運動会

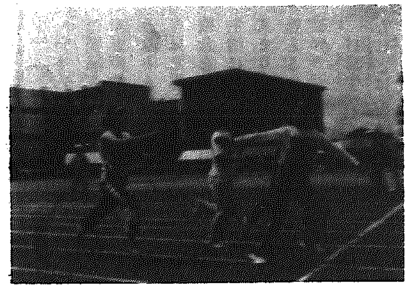
木場分館に凱歌(がいか)

今年で第十八回目を数えた、公民館主催の分館対抗町民大運動会が、今年も六月二十四日黒埼中学校グランドで、三千余人の選手、観衆の見守る中で、大接戦を展開、結局、規定により、優勝種目の多い木場分館が昨年に続いて優勝を飾りました。

当日は、心配されていた天候もあやしい空模様から除々に回復し、正午ころからは水銀柱グングン上昇し、雨どころか真夏なみの暑さに早変わり。こんな中で二十チームが優勝旗争奪戦を展開、競技も新種目二つを加え盛り上りをはかるなど主催側もアイディアを駆使、しかし、いつもながら人気の的は児童レース、応援席では我が子、我がチームの声援に、全員総立ちで、「ガンバレ」「ガンバレ」の大合唱、結果は同点の末、木場チームが大野をおさえ、二年連続優勝をかざり喜びの歓声をあげていました。結果は次のとおりです。

優勝	木場分館	五九点
準優勝	大野分館	五九点
第三位	立仏分館	五五点
第四位	金巻分館	五三点
第五位	山田分館	五三点
第六位	北場分館	五二点
第七位	寺地分館	五一点
第八位	柳作分館	五〇点
第九位	寺地団地分館	五〇点
第十位	黒鳥分館	四九点

以下省略



早く――。早く――。

お昼休みのひと時民謡で骨休み

くらしの知恵

練り歯みがきの利用法

練り歯みがきは、歯をみがく以外に、いろいろの利用法があります。いくつかあげてみましょう。

銅器や金の飾り、それに銀や、銀メッキのフォークやスプーンは使わないでいると色が変わります。柔らかい布に練り歯みがきを少量つけてこすると、きれいな光沢がでてきます。あとはぬるま湯でよく洗い、水気をよくふきとります。

汗などで光のにぶったネックレスなどは、ネルのような布に少量の練り歯みがきをつけて鎖を引っぱりかげんにして、少しずつこすると光沢が戻ります。

プラスチックの浴そうのシミはとりにくいものです。そこで粒子のこまかい練り歯みがきを布につけてこすると、汚れを落とすと同時に表面を研摩するのでキズがつきません。洗面タイル、蛇口、パイプの汚れとりに、練り歯みがきを布につけてこすります。力の入れにくい所は細くさいた布で交互にひっぱるとキレイになります。

福祉を〝食い物〟に

街頭募金など「だましのテクニック」にご用心

【相談】若い女性が身体障害者のためにと言って救急バンソウコウを売りにきたので、いらないと言って断った。後で聞くと近所の人のほとんどが買ったとのことで、あなたは非協力的だと言われた。本当に信用してよいのかどうか迷っています。こんな時どうしたらよいでしょうか　一主婦

――最近、福祉団体の名前を悪用し、身体障害者などへ善意を装って、怪しげな訪問販売や街頭募金をする悪質なグループが全国各地に出没しています。なかには、かってのゴムひもの押し売り時代を思わせるようなものもあります。

福祉の美名を利用するグループが口にする福祉団体の名前は実在しているものや架空のものも含めていろいろですが、いずれも〝うそつき商法〟。扱っている商品もハンカチや救急バンソウコウなどと似通っていることから、かなり組織的な活動をしているようです。

名前を悪用された福祉団体では「特定組織の利益のためにやっているとしたら、人の善悪を踏みにじる卑劣な行為だ」と怒りの声を上げています。ですが、その販売方法の違法性については、消費者保護をねらいとした訪問販売法の適用もできず、警察でも裏付けを取りにくいのが現状だということです。

公の団体で福祉資金集めのために商品を家庭訪問して売ることはありませんので、福祉を装う訪問販売には安易に手を出さないよう、お互いに注意しましょう。

夏バテ防止に「う」の字のつく食べ物を

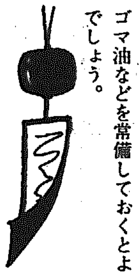
わたしたちの体は、体温を調節するために、常に発汗作用を行っています。

とくに夏は、これといった汗をかかなくても、一日に九〇〇C C（牛乳びん約五本分）にものぼる水分が、わたしたちの体から蒸発するといわれます。このときの〝蒸発熱〟が体温を奪い、調節作用を果たすのですが、同時にそれなりのエネルギーを使います。ですから、発汗作用が激しいと、その分よけいに疲れ、夏バテの原因にもなります。

夏バテは、やがて体力の衰えにつながるのですが、そうならないうちに回復させるのが、健康保持の秘訣です。それには、夏の食生活をどう工夫するかが大切なポイントになります。

ところで、日本人は昔から、夏の土用(うし)の日にウナギを食べる習慣があります。また夏の暑い間は、ウメボシやウリを好んでよく口にします。ウナギはたんぱく質や脂肪・ビタミンAを多く含む〝スタミナ源〟として重宝がられ、ウメボシは食欲を増進させ新陳代謝を活発にする働きがあるといわれています。

夏バテ防止に「ウ」の字のつく食べ物を――わたしたちの祖先が生んだ、すばらしい〝生活の知恵〟といえます。また、食品ではでんぷん質より脂肪分を多くとるように心がけたいものです。そのためにも、毎日の食卓に小出しのできる酢やウメボシ、サラダオイル、ゴマ油などを常備しておくとよいでしょう。



家庭での躾(しつけ)が大切

夏休み中の生活指導

七月六日、町中央公民館で、青少年問題協議会、町内各校PTA連絡協議会の主催で、全町補導員連絡協議会が開かれ、夏休み中の生活指導などを話し合いました。

はじめに新潟西警察署の栃倉昭二防犯課長より「最近の青少年非行の実態について」の講話があり、つづいて協議に入り〝地域の子供はみんなで見つめ、育てよう〟を骨子とするアッピール事項や夏休み中の生活指導上の共通推進事項を採択するなど、青少年の健全な育成は「家庭における躾が大切」であり、地域ぐるみでこの問題に取り組むことなどを討議し、終了しました。

正しい敬語　5

人前での話し方

表情言葉遣いで聞き手に親しみを

結婚式などのテーブルスピーチをはじめ、式辞、あいさつ、報告説明など、人の前で話をする機会は、なにかと多いものです。

そういう場合、気がきいている、感じがよい、簡潔だ、分かりやすいなど、聞き手に良い印象を与えることができれば成功です。そのためには、話の内容がその場にふさわしく、よく練られていることが一番大切ですが、表情や態度、音声、言葉遣いも、聞き手に親しみや信頼感を与える大きな要素になります。

上達の秘訣は、日ごろから人の話を注意して聞くこと（テレビも参考になる）自分が話をする際には文章やメモに書いてみて、あらかじめ練習しておくこと、などです。

大勢の前で話すときは、一人対多数という〝場の原理〟が働いて敬語の表現が多くなります。「です」「ます」「であります」「ございます」などの丁寧語が土台になるのも、そのためです。

「一言ごあいさつ申し上げます」「見てまいりましたことをご報告いたします」などの謙譲表現や「皆さんはどうお考えですか」「ご遠慮なくお尋ねください」のような尊敬表現が間違いなく使えれば安心といってよいでしょう。

なお「ごあいさつ申し上げます」「ご報告いたします」のように「ご（御）」を自分の動作につけるのは、事柄が相手の人に関係するものだからです。